

これからの日本で求められる仕事と能力とは

—これからの高校を考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：これからの日本で求められる仕事とは何ですか。

A：政府の「日本成長戦略会議」は、次の17の仕事が日本の成長に欠かせないと、2026年7月に発表しました。

- ① AI・半導体
- ② 造船
- ③ 量子
- ④ 合成生物学・バイオ
- ⑤ 航空・宇宙
- ⑥ デジタル・サイバーセキュリティ
- ⑦ コンテンツ
- ⑧ フードテック
- ⑨ 資源・エネルギー安全保障・GX
- ⑩ 防災・国土強靱化
- ⑪ 創薬・先端医療
- ⑫ ヒュージョンエネルギー
- ⑬ マテリアル(重要鉱物・部素材)
- ⑭ 港湾ロジスティクス
- ⑮ 防衛産業
- ⑯ 情報通信
- ⑰ 海洋

Q：日本が目指す姿は何ですか。

A：持続可能な経済成長・発展の実現に向け、成長を支える人材が、育成・確保され、活躍する社会です(この中には、当然、シニア・女性・障がい者・外国人材も含まれます)。

- ① 経済力の基盤となるのは人材力
 - ② 不確実で、非連続な変化が起こりうる未来に対応できる人材の育成が重要
 - ③ 「人への投資の好循環」の創出が不可欠
- 「経済成長・果実」→「人への投資」→「人材育成」→「成長分野での活躍」

Q：17の成長分野に共通する人材育成の課題は何ですか。

A：①各産業を支える理工・デジタル、現場人材の不足

②高度化する技術や新しい知識・技能への対応

③新しい価値を生み出すイノベーション人材、技術とビジネスをつなぐ人材、専門知識だけでなく、経営判断力も併せ持つ人材の確保

○特に、「イノベーション」を興(おこ)することができる人材や、「現場」を支える人材

○「成長力＝労働量×人材力」

○「問題設定力」→「現場対応力」→「分離融合」→「新たな価値を生み出す力」→「世界で戦う力」→「構想力」→「キャリアオーナーシップ」→「社会実装力」

Q：2040年に向け、これからの高校はどうなりますか。

A：(1)学びの在り方の転換

①リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現

②スクールミッション、スクールポリシーを踏まえた教育活動

③高校教育と一貫した大学教育改革(主体的・自律的な学修)

(2)最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化

(3)学ぶ機会・アクセスの確保

Q：2040年に向けて、新しい高校はどのようなイメージですか。

A：(1)専門高校(工業高校や農業高校、商業高校など)の機能強化・高度化

①ビジネス経験の必修化

②モノづくりから流通まで一体的な学びの実践

③「高校版企業寄付講座」等の実践や、それを前提とした進学就職機会の確保

○アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成

○人口が減っても、専門高校の定員は現在と同じ

(2)普通科改革を通じた高校の特色化、魅力化

①実社会につながる生きた授業

②高度実験環境を核とする理数探求拠点の整備

○文理の双方の素養を有する人材の育成

○普通科高校の文系・理系の生徒の割合は同数とする

(3)地理的アクセス・多様な学びの確保

①学校間連携、遠隔授業

②学校と、地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供

③他の種類の学校との連携の充実

○学校の枠を超えて多様な人々と協働

○高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

(4)校内オープンラウンジを活用、放課後の「サードプレイス(居場所)」での学び促進

(5)高専(高等専門学校)強化<いよいよ、高専の時代です>

①高専の「量的拡大」

○公私立高専の新設促進(都立高専、県立高専、私立高専の新設を促進)、

- 高専教育の領域拡大(農業、コンテンツ)
- 学生の多様性確保(女性)
- 高専志願者増に向けた対応
- 少子化傾向においても高専学生数を増加させる
- ②高専教育の質的向上
- ③高専卒業者の「国際通用性確保」
- 高専生の海外留学の促進

Q：まとめていうとどういうことですか。

A：(1)＜これからの日本、これからの世界の変化は＞

- ①生成 AI 等の技術革新の急速な進展
- ②予測を上回る人口減少・少子高齢化の進行
- ③社会経済構造の激しい変容
- ④我が国社会の多様化
- ⑤国際情勢の著しい不安定化

(2)これからの我が国を担う子供たちは、このような激しい変化がとどまることのない時代を生きることになります。AI 時代を迎えるにあたって、主体的・自律的に生きる力を、自己責任・自助努力で身に付けてまいりましょう。

(3)高校生になっても大切にしていきたいのは、

- ①「自覚をもって学ぶこと」
- ②「効果の上がる学習方法(学習の3段階理論)を身に着けること」
- ③「長時間自己学習能力を身に着けること」
- ④「辞書・新聞・読書・図書館に慣れ親しみ、読解力を身に着けること」
- ⑤「積小為大」「小さいことを積み重ね、大きな志(高い志)を成し遂げること」

Q：学習塾・予備校・私立学校の幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)2030年度からの新学習指導要領の改訂作業が大詰めに近づき、文部科学省は、政府の経済財政諮問会議の要請を受け、「新経済成長17分野」に対応する人材戦略を「新学習指導要領に組み入れる」大実験を行い始めました。

(2)その全貌がジュに公開され始めました。素晴らしい内容ばかりです。

(3)文科省や政府の HP をしっかり分析し、対応策を策定いたしましょう。

Q：最後に一言どうぞ。

A：「読書の秋」になりましたので、今月は、「読書教育」をご提案いたします。

○学習塾、予備校、私立学校の先生ほど、自由自在に学ぶことができ、自由自在に教えることができる職業はありません。そうであるならば、得意分野を極め、苦手分野も多少意識しながら、子どもたちの将来のために、先生としての読書をおすすめします。

○歴史を教える先生方や、歴史好きの先生方には、横山光輝の「歴史漫画シリーズ」が、おすすめです。「殷周伝説」(潮出版)、「伊達政宗」(講談社漫画文庫)など、中国史、日本史に登場

する人物に焦点を当てた「歴史漫画」は、各時代の理解を促進。これまでも、世界史好き、日本史好きを、多数輩出する原動力となってきました。横山光輝や手塚治虫の「歴史漫画の名作」をぜひ手に取り、ご熟読ください。

○歴史を教える先生方におすすめるは、「中公文庫、世界の歴史、全16巻」と、「中央公論、日本の歴史、全巻」の2つのシリーズです。著者は、超一流の先生ばかりですので、大学や大学院の授業をお聞きするつもりで、一気に読もうとせず、行きつ戻りつ、ご自分の血や肉となるくらい、一語一語、かみしめながら、お読みください。

○ご自分のお好きな歴史上の人物が執筆した代表的な著作・作品は、日本語訳で十分ですから、ゆっくり、ノートを取りながらお読みになることをおすすめします。代表作は。「深い理解」つまり「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」に挑戦。アダムスミスなら、岩波文庫などで、「道徳感情論」「法学講義」をお読みになってから「諸国民の富」をノートを取りながら読む。その内容を授業で紹介すると、大学教育に接続した素晴らしい教育となります。

○ちなみに、「岩波文庫」や「講談社学術文庫」など「学術系の文庫」の多くは、日本や諸外国の大学や大学院、それ以上のレベルの内容です。問題意識の高い中高生に、本の内容をご紹介します。書店や、図書館などで作品に触れた生徒は、潜在能力の一部となり、未来への扉を開きます。

○私は、十数年来、「公益財団法人文字活字文化推進機構」の評議員を拝命しています。機構の活動の一環として「ビブリオバトル(推薦本の紹介コンテスト)」があります。

①自分の好きな本を5分間(小学生は2分間)何も見ないで紹介。2分間、質疑応答。

②何人か紹介し終えた後、全員で質疑応答。

③最後に、(自分が紹介した本を除き)その日に紹介され多本で一番読みたくなった本は何か、参加者が一人一票で、投票。その日のチャンピオンを決めます。全国の学校図書館、公立図書館、高校や大学の一部で大流行。東京都 墨田区では、全公立小中学校で行い、大好評。

○学習塾・予備校・私立学校でも、この「ビブリオバトル」にご挑戦、「読書教育」をなさることをおすすめいたします。

○「文字活字文化推進機構」では、「朗読者の養成講座」も超人気です。学習塾・予備校・私立学校で、独自の「朗読者養成の仕組みづくり」を行い、「読書教育の担い手育成」にご挑戦を。

(2026年9月1日記)